

Flow × Paper =

Flower Project



現代における「フラワーロス」を減らすために、今私たちが出来ること。

Nature アニュアルレポート
(2019~2020)

Presented BY 私立豊南高等学校

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



OUR PROJECT

～目標～

「廃棄される花を再活用し、しおりや付箋など、人の役に立つものとして最後まで花を無駄にしない。」



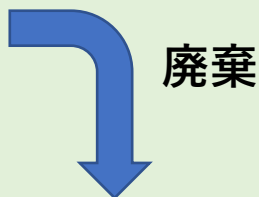
最終的には多くの人々が花ロスに着目し、みんなが協力して花の廃棄量を減らしていく社会にする！

動機 ～MOTIVE～

「私たちは最初、食品ロスに着目していましたが、すでに世間から注目されており、その対策も確立されつつある問題でした。対して、フラワーロス(※1)はまだ着目されていないため、結婚式場での大量の花の廃棄、綺麗なのに形が悪く間引きされる花など、たくさんの綺麗な花が捨てられてしまいます。

このフラワーロスはフードロスと比べて三倍の量あると言われています。お花屋さんでは毎日大量に花が売れ残り、廃棄されているそうです。中にはドライフラワーにして長持ちさせるなどの手段も取っているところもありますが、それでもまだまだ十分な対策は確立されていません。

これらはまだ認知も低いため、私たちがスポットライトをあて、食品ロスと並ぶ、解決をしようと思い、このプロジェクトを始めました。



方法 ～METHOD～

前述したとおり農家・市場・花屋などでは大量に花が捨てられ、対策法もあまり見つかっていません。

そこで私たちは本来捨てられる花から色を抜き染料として再利用することで捨てられる花を減らし、作った染料を活用して商品を作ろうとしました。

方法は以下の通り、

- 1・ミキサーに花を7房程度とお湯100mlを入れて混ぜる。
- 2・花卉の形が残らなくなるまで混ぜたら取り出す。
- 3・ネットで染料と搾りかすに分ける

完成！！



また、私たちはこの搾りかすや牛乳パックの繊維を使いはがきを作り販売することで完全に花を使い切ることを可能にしました。

いずれは花のロスを0に！！

※1 フラワーロスとは農家、市場、花屋などで出荷から、搬送時や生花店等での在庫時に劣化するなど、客の手に渡ることなく、花が廃棄されることです。

今後の展望

～FUTURE OUTLOOK～

私たちの代

私たちは今後、幼稚園・小学校・児童館などでワークショップを開き、一般の皆様にもこの方法を伝えることで意識変化などを促していきます。

例えば、はがきの場合は参加家庭から牛乳パックを、布製品の場合は不要になった布ものを持参してもらいます。さらに使用する花も市場から回してもらえるので実質的な材料費は0円であり、ワークショップなどで商品の宣伝・販売を進めることで初期投入金額分を稼ぐことができると考えています。

後輩たちの代

引継ぎに関しては現在、本校科学科の先生方やPTAの皆様から協力を仰ぎ、後輩へこのプロジェクトを伝えることで引き継いでもらうことで、学校内で継続的にプロジェクトを循環できるのではと考えています。

メリット ～MERIT～

○学校側のメリット

- ・本校でプロジェクトを進めることで生徒の視野の広さ、協調性、コミュニケーション能力を上げることができる。
- ・このようなプロジェクトに興味がある生徒が入学してくるので、入学者数が上がる。

○社会のメリット

- ・花の消費が増えることで青果物の販売、生産が活発化する。→経済が回る
- ・前述したワークショップに参加した方々のロスに対する意識が変わる

SDGSへの影響



花の廃棄は食品ロスの3倍。この問題に対して意識的に減らす努力を促すことで、廃棄量を減らすことができる。

また再利用するにあたってしぼった後の残りカスも使うので不要なものが出ない。



廃棄された花は焼却処分されることが多い。そのロスを減らすことで余計な有害物質や二酸化炭素の排出が抑えられ、地球温暖化や酸性雨などの問題が少なくなる。



お花屋さんに並んでいる花はほとんどが人口のものですが中には天然物の花もあります。そのような花が必要な人の手に渡らずに枯れて、廃棄されてしまうことは環境資源を無駄にしているのではないだろうか。

About US

「Team Nature」 『このプロジェクトは
リーダー 様々な人たちの後押しを
篠原 優理 を受け作り上げた「種」
サブリーダー であると言えます。
藤原 慶宣 将来、大きくきれいな
記録 「花」となってくれるよ
國政 慧悟 うこれからも手をかけて
洞 陽人 いきます。』
雑務 ~チーム一同~
森川 優豪